

婦人新報

【復刻版】

日本キリスト教婦人矯風会 編

全六〇巻・別冊一

一八八八(明治21)年〜一九五八(昭和33)年
菊判上製 総約三〇、〇〇〇ページ

本体揃価格 八四万円(税別)

復刻にあたって——戦前日本の最たる人権抑圧のひとつであり、

国家による性管理を象徴する公娼制度——。

日本で最も古い女性運動団体のひとつである日本キリスト教婦人矯風会は、早くからこの問題に取り組み、いくども挫折にもかかわらず

けっして諦めずに解決を求めつづけ、それは現在にまで至っている。

婦人矯風会のあゆみは、中核に買売春反対を据えながら、抑圧される

女性の人権に視点を置き、横暴な男性社会を告発し変革してゆこうとする

柔軟な実践のあゆみでもあった。飛田遊廓再建反対の運動が敗北したのは、

女性に参政権がないからだ、と日本婦人参政権協会を設立し、婦選運動の

一翼を担う重要な役割を果たしたのもそのひとつであり、平和運動・

母性保護運動などにも積極的に関わった。

しかし一方、同じ女性である娼妓に対し連帯を求めるよりも救済の対象

として捉えがちであったこと、植民地・戦場での「慰安婦」政策への批判的

視点の欠落、日本軍国主義へのナシヨナリスティックな協力、など戦前の

運動の限界は今日の女性運動にも大いに示唆のある問題をはらんでいる。

日本近代史研究、とくに女性史・キリスト教史研究に必須の文献として、

また「従軍慰安婦」問題・売春防止法改正などが問われている、

今日の女性問題の根源を問う貴重な資料として復刻するものである。

第 壹 号

毎月三土曜日発行



最初の女性団体であり、一夫一婦制・買売春反対・

女性参政権など女性の人権問題に正面から取り組んだ、

日本キリスト教婦人矯風会の機関誌『婦人新報』を復刻！

女性解放史の歩みを辿る貴重資料！

不二出版

廢娼地圖

廓清會 廢娼聯盟
婦人矯風會



廢娼地圖(一九二九年)

『婦人新報』復刻に寄せて(廣木同)

祈りに満ちた実践の記録

林千代(城西国際大学人文学部教授)

●私がとりわけ『婦人新報』に親しんだのは『続社会事業に生きた女性たち』(五味百合子編下メス出版)の中の守屋東を担当した時のことである。一九七九年の頃であった。古い『婦人新報』は、傷みがはげしくなっており注意深く取り扱わなければならないかった。守屋東の活躍した年代を中心に読んだ『新報』は祈りに満ちていた。その祈りは、信仰のない私をしてひきつけずにおかなかった。活動が前進しなかったり、必要な資金が集まらなかったりすると、彼女達は悩みつつ祈り続ける。なぜひきつけられたのかという自らへの問いに答がみえるまで、しばらくの時が経過した。祈りは、信念徹底なのであった。

●日本キリスト教婦人矯風会の活動は、いまなお祈りとともに信念徹底である。戦争責任を追求し、売買春、アルコール依存の問題として最近ではいわゆる「従軍慰安婦」を含む性暴力へのとり組みなど、終始一貫女性の人權という視点に立って、言論と実践の両面から果敢な闘いをいどんでいる。

『婦人新報』は、いうまでもなく矯風会の言論活動であるとともに、実践を検証する場である。かくも率直に、明確に自己主張しつづける活動がこれまであったのだろうか。

『新報』を読むたびに、希望と勇気を与えられるのは私だけではない。

待っています

森崎和江(詩人・作家)

●一昨年のこと、八〇代の女性から次のような話をうかがいました。実父によって売られ、逃げ、小学校時代の先生の転任先へと救いを求めました。この教師は綴方運動をしていましたが、とある町の英国人宣教師のもとへと彼女を送ります。こうして一〇代なかばの彼女は救われ、結婚生活に入ったというのでした。彼女がほのかに語った村や町の名を頼りに、私は大正末から昭和一〇年代の廢娼運動の一端をたずね歩いてみました。そして開戦によって帰国させられた外国人宣教師や、解散したり、統合した救援組織の家屋の跡を知りました。綴方運動との接点は、私にはまだ、まるでわかっておりません。お教えいただきたいと思えます。

これは廢娼運動の一例にすぎません。いえ、日本の女の日常の一部にすぎません。実父が娘を売り、先生が教え子を買うことをかつての民法は守り、憲法はこうした市井の女の暮らしを基盤に維持され、「聖戦」は近隣アジアへと兵を送りました。

●今『婦人新報』全六〇巻が復刻も間近かです。待たれてなりません。それは、この実践記録誌が日本女性史のすぐれた先駆者であるためだけではありません。それは、この七〇年間の記録が、氷山の一角として、幅ひろく多面的に日本の文化とかわりを持つているからです。社会運動から乳幼児保護まで。いえ、いのちの全貌へと。

関連図書のご案内

復刻版

廓清会刊

廓清(全三巻・別冊一)

- 明治44年(昭和20年)刊
- 別冊(解説(竹村民郎)・総目次・索引)
- B5判・上製・総16、500頁
- 本体価格495、000円
- 推薦(一番ヶ瀬康子・高橋喜久江・竹村民郎・松井やより)
- 一九二一年、大火後の吉原遊廓復活を契機に結成された廢娼団体(廓清会)の機関誌、各地での運動の状況、娼妓の生活の実態、買売春に関する統計など資料、廢娼論などおよそ戦前期廢娼運動の資料のすべてが網羅されている。

日本救世軍編

ついでに『新報』全三巻・補巻・別冊

“一粒の麦”——その稔りの記録

一番ヶ瀬康子(金澤大学社会学部教授)

●私はかつて、東京婦人矯風会会頭をつとめられた晩年の久布白落実先生から“一粒の麦”という自筆の書をいただいたことがある。キリスト者にとっては、まさに荒れ地に等しい日本の土壌に一粒の麦がまかれ、その稔りが記録されたものが『婦人新報』である。それは、かつては日本社会の恥部であった公娼制度に果敢に戦いを挑み、また人權をふみにじられた廓の女性たちの解放に専心し、さらに理不尽な売春問題を解決するためには婦人が参政権を持たなければならないという考えから、婦人参政権運動にまで展開されたその運動の記録が集録されている。

●またキリスト者の女性の先駆者たちがどのような思いと願いで、その運動の灯をかがけてきたかという生涯と思想の証も、盛りこまれている。そのような『婦人新報』の今回の復刻が、「慰安婦」問題などが注目されている折、改めて復刻がなされることは、まことに意義深い。多くの人の手にわたったりまた克明に読まれることを、切に願ってやまない所である。

“記録と記憶”の証しとして

小倉襄二(同志社大学文学部教授)

●私は、自分のなかに歴史をよむ(阿部謹也教授というコトバを大切にしたいと希っています。こうした奔放な情報社会のなかではじつくりと記録と自分の記憶や想念を確かめる作業がむづかしくなりました。眼の前に生起する女性問題の



街頭募金をする久布白落実(一九五五年)



街頭募金をする久布白落実(一九五五年)

「一粒の麦」——その稔りの記録

一番ヶ瀬康子(東京大学社会学部教授)

●私はかつて、東京婦人矯風会会頭をつとめられた晩年の久布白落実先生から「一粒の麦」という自筆の書をいただいたことがある。キリスト者にとっては、まさに荒地に等しい日本の土壌に一粒の麦がまかれ、その稔りが記録されたものが『婦人新報』である。それは、かつては日本社会の恥部であった公娼制度に果敢に戦いを挑み、また人権をふみにじられた廓の女性たちの解放に専心し、さらに理不尽な売春問題を解決するためには婦人が参政権を持たなければならぬという考えから、婦人参政権運動にまで展開されたその運動の記録が集録されている。

●またキリスト者の女性の先駆者たちがどのような思いと願いで、その運動の灯をかがけてきたかという生涯と思想の証も、盛りこまれている。そのような『婦人新報』の今回の復刻が、「慰安婦」問題などが注目されている折、改めて復刻がなされることは、まさに意義深い。多くの人の手にわたりまた克明に読まれることを、切に願ってやまないしだいである。

「記録と記憶」の証しとして

小倉襄二(同志社大学文学部教授)

●私は、自分のなかに歴史をよむ(阿部謹也教授)というコトバを大切にしたいと希っています。こうした奔放な情報社会のなかではじつくりと記録と自分の記憶や想念を確かめる作業がむづかしくなりました。眼の前に生起する女性問題の諸相、労働問題における性差別から「従軍慰安婦」のこと、先端的なフェミニズムの諸局面、それらは情報としてあるけれども未だたしかな記録や私たちの記憶を触発するものとはいえません。こうしたいまの主題の扱いについてさきの「自分のなかに歴史をよむ」という大切な方法についてもとりくみが希薄になってきたように視えます。

●一八八八(明治二二)年に創刊され、一九五八(昭和三三)年に至る『婦人新報』はこうした主題にとつてゆたかな大河のような記録といえるでしょう。女の挑み、対決してきた廃娼、婦人参政権、労働、社会問題、福祉の局面など実に多彩、多岐にわたる人々とその切実な語りと祈念が記録されています。●『婦人新報』にも自伝の連載のある久布白落実氏に矯風会の会頭になられた頃にお目にかかりお話を伺うことのできた記憶があります。小柄で温容、童顔の方でどこから女性の昏黒としての公娼廃止にいとみ、参政権をもとめての苛烈な運動などに永年、主軸としてあゆんでこられたのか、そうした印象でした。ミラン・クンデラは、権力に対して民衆の決して屈することのないとなみは記憶しつづけることだといったそうです。私たちの忘却、風化を拒む拠り所としての記録、『婦人新報』の復刻とその活用につよく期待します。



大政南部に飛田遊亭設置反対(母の叫)一九一六、一九二五

母の叫 涙あ陳情

日本婦人矯風会頭白落実久布大政支部長 林 敬子

絵はがき(左)矢島梅子、右)林敬子・一九二六年

というのでした。彼女がほのかに語った村や町の名を頼りに、私は大正末から昭和一〇年代の廃娼運動の一端をたずね歩いてみました。そして開戦によって帰国させられた外国人宣教師や、解散したり、統合した救援組織の家屋の跡を知りました。綴方運動との接点は、私にはまだ、まるでわかっておりません。お教えいただきたいと思えます。

これは廃娼運動の一例にすぎません。いえ、日本の女の日常の一部にすぎません。実父が娘を売り、先生が教え子を買うことにかけての民法は守り、憲法はこうした市井の女の暮らしを基盤に維持され、「聖戦」は近隣アジアへと兵を送りました。

関連図書のご案内

廓清会刊

●明治44年(昭和20年)刊

●別冊「解説(竹村民郎)・総目次・索引

●B5判・上製・総16、500頁

●本体価格495、000円

●推薦 一番ヶ瀬康子・高橋喜久江・竹村民郎・松井やより

一九一一年、大火後の吉原遊廓復活を契機に結成された廃娼団体「廓清会」の機関誌。各地での運動の状況、娼妓の生活の実態、買売春に関する統計など資料、廃娼論などおよそ戦前期廃娼運動の資料のすべてが網羅されている。

日本救世軍編

●明治28年(昭和23年)刊

●補巻「日本救世新聞「朝のひかり」のど書」

●別冊「解説(室田保夫)・総目次・執筆者索引 全2巻

●A3・B4・A4判・上製・函入・総9、042頁

●本体価格400、000円

●推薦 朝野・洋・一番ヶ瀬康子・杉井六郎・高橋喜久江・山室徳子

あまりにも名高い娼妓自由廃娼運動とその救済活動、生活困窮者、無宿者、刑余者対策、結核療養所創設、災害救済……等々、日本救世軍の業績は、日本近代の社会問題、人権問題及び社会福祉の歴史を語るのに不可欠である。

廃娼雑誌社発行

●明治23年(明治24年)刊

●解説(竹村民郎)付き

●菊判・上製・函入・326頁

●本体価格9、000円

東京や群馬など各地で廃娼運動が盛り上がりつつあった八九〇年に創刊された本誌は、草創期廃娼運動の各地の状況を克明に伝える貴重資料。

上毛青年社発行

●明治22年(明治29年)刊

●別冊「解説(片野真佐子)・総目次・索引

●A5判・上製・総1、234頁

●本体価格36、000円

群馬県西上州の「上毛青年会」の機関誌。同会は日本の廃娼運動をリードし、県議会で廃娼令をからとる。廃娼運動の先駆の貴重な記録である。

伊藤秀吉著

●昭和6年刊

●解説(高橋喜久江)付き

●四六判・上製・函入

●日本廃娼運動史「610頁 本体価格7、000円

●推薦 高橋喜久江・吉見周子

廓清会の中心的人物・伊藤秀吉が著した本書には、男女の民主主義者の良心が貫かれている。買売春の歴史、廃娼を目指した人々の苦闘を知る、恰好の書。

紅燈下の彼女の生活 日本廃娼運動史

婦人參政權とは何ぞや

幹事 久布白落實

まで進んで来た道程を物語って、莞爾として社會改善の喜びを洩されたと云ふ事を聞かされた。參政權の第

一、男女機會の均等

或人が英國の婦人參政權のリーダーなるト夫人に向つて、「随分長い間の御苦勞で五十年間の敗北史でしたからね」と申すとぐそれに答へて、「否々決して敗北史ではあ五十年の連続した勝利史です」と云つて、男女の教育の門戸が開かれ始めた事から、一つ異つた職業の門戸が開かれ、今年は見女醫、五年の後は辯護士、其後は工場監査人、入くんだ職業が年と共に婦人に對して來た事、又同時に、年々歳々婦人が社會に認められて來た事、進んで市町村の政治與し縣會の委員や、顧問、議員となり、終

一九二〇年七月号より

清沢湧	363-10, 496-10, 499-6, 500-14, 515-6	久木田とみ子	698-29
清原幹世	649-22, 651-8, 658-24, 663-21	釘宮	189-15
清原道子	531-21, 532-8, 533-12, 535-18, 536-22, 538-5, 540-15	釘宮須賀	388-28
桐生豊子	692-34	草間弘二	531-10
桐山寿恵子	269-32, 280-32, 286-37, 292-31	草間時福	東13-23
基隆支部	406-39, 436-48	草間道子	大会号-37
		草間芳枝	374-26
		申田こう	東11-31
		榎田千代子	265-35, 269-32, 271-31, 273-43, 276-29, 279-27
		串戸きよ	248-44
		榎部実子	39-27
		九条武子	337-31
		釧路支部	462-43
		葛蔭さう子	215-21
		楠瀬幸彦	97-21
		楠正成	東43-7
		工藤すみ	397-45
		工藤鉄雄	471-19
		国信玉三	666-24, 667-25, 668-33, 669-27
		国馬正一	419-42
		久布白→久布白落実	
		久布白落実(おちみ, 大久保落実, くぶしろ, 久布白, 久布白オチミ)	
		42-18, 46-18, 179-12, 191-5, 199-13, 200-25, 205-30, 213-4, 216-3, 219-5, 223-7, 225-4, 225-6, 225-(2), 226-3, 227-5, 227-27, 228-5, 228-29, 229-5, 229-26, 230-4, 231-5,	
クーパー, スミス	518-26		
グトフハーム	22-11		
クラーク	70-13		
クラーツ, エリザベス	96-36		
クライン	223-11		
クラウド	441-23		
グラツトウイン	94-37		
クラン, モーリス	15-15, 16-15		
グランド	東56-7		
グリーンソン	229-9, 235-11		
グリーンリ, アール, エイチ, エル	婦7-35		
グリンウエル	172-1		
クリントン	婦12-20		
グレー	90-25		
クローソン	185-6		
グローバー	41-14		
くぶしろ→久布白落実			
くれなゐ	94-23, 98-13		
くろかみ生	208-15		

索引より



婦人新報 復刻版概要

全六〇巻・別冊一
 菊判上製 総約三〇、〇〇〇ページ
 別冊 解説(五味百合子)・総目次・索引
 (別冊のみ分売可) 一八、〇〇〇円
 全10回配本(96年8月〜98年6月)
 各配本每 本体価格八四、〇〇〇円(税別)
 本体価格八四〇、〇〇〇円(税別)

●誌名の変遷について
 『東京婦人矯風雑誌』 第一巻〜三巻
 『婦人矯風雑誌』 第四巻
 『婦人新報』 第五巻〜六〇巻

第一回配本	一八八八〜一八九六年	第一巻 1〜15号
第二回配本	一九〇二〜一九〇八年	第二巻 16〜31号
第三回配本	一九〇九〜一九一四年	第三巻 32〜47号
第四回配本	一九一五〜一九二〇年	第四巻 48〜63号
第五回配本	一九二一〜一九二六年	第五巻 64〜79号
第六回配本	一九二七〜一九三二年	第六巻 80〜95号
第七回配本	一九三三〜一九三八年	第七巻 96〜111号
第八回配本	一九三九〜一九四四年	第八巻 112〜127号
第九回配本	一九四五〜一九五〇年	第九巻 128〜143号
第十回配本	一九五一年〜一九五八年	第十巻 144〜159号
別冊	一九五九〜一九六〇年	別冊 160〜175号

●本カタログ中の表示価格は、
 全て消費税を含んでおりません。
 ●弊社は注文制です。
 ●お近くの書店にご注文ください。

不二出版(株)

〒113 東京都文京区向丘1-2-12
 電話 03-3812-4403
 FAX 03-3812-4464
 振替口座 00160-294084